（1）Q-SACCS の概要

「発達障害の地域支援システムの簡易構造評価（Quick Structural Assessment of Community Care System for neurodevelopmental disorders; Q-SACCS）」は、市区町村の支援体制を「見える化」し、現状の強みや課題を明らかにする（支援体制を点検する）ツールとして開発されました。

市区町村の支援体制づくりの最初の一歩は、現状の支援体制を「点検」することです。現状の支援体制で、何ができていて（充足していて）、何が課題なのか（足りないのか）を明確にしていくことが大切です。具体的には、市区町村の各部局や各課が主管する事業や取り組み、民間事業所への委託事業が、どのような役割を果たしているのか、事業と事業の「つなぎ」をどのように行っているのかを見える化することで、支援体制の点検が容易になります。

Q-SACCSは、本田が考案・改変（本田,2014,2016）した地域支援システムのモデル図をもとに開発されました。Q-SACCSの特長は、「つなぎ」に注目して、地域の支援体制の充足度を点検することができることです。

市区町村の支援体制をQ-SACCSを用いて点検することで以下の成果を得られます。

①市区町村の取り組みの価値（強み・特色）を確認できます。

▼

②支援体制の課題が明らかになり、課題解決に向けた取り組み（複数年でのPlan-Do-Check-Action（PDCA））を導入しやすくなります。

▼

③市区町村内で、新たな事業の創出や取り組みをスタートさせるための根拠が明確になります。

また、都道府県内の複数の市区町村がQ-SACCSを用いて支援体制を点検することで、自治体同士の情報交換が活性化されます。たとえば、A市の強みはB町の課題解決のヒントとなる可能性があります。さらに、複数の市区町村に共通する『課題』は都道府県全体の課題として認識することができ、都道府県の発達障害者支援センターや発達障害者地域支援マネージャーの市区町村支援の目的が明確になります。

改正発達障害者支援法では、身近な地域において生涯にわたる切れ目ない一貫した支援の実現、発達支援が必要な子どもと家族への切れ目ない体制づくりが規定されています。地域で切れ目ない支援体制づくりを進めるためには、単一の部局ではなく、保健・子育て・教育・福祉等の部局横断的な取り組みが必要になります。発達障害者支援を部局横断で検討するテーブル（地域自立支援協議会の活用等を含む）をつくることで、自治体の各部・課・係・担当が発達障害者支援を「我が事」として認識する素地づくりも大切です。

【引用・参考文献】
本田秀夫（2014）：発達障害の早期支援. 精神療法 40(2):299-307
本田秀夫（2016）：早期発見から早期支援へ（発達障害の早期発見・早期療育・親支援）. 金子書房，東京
本田秀夫（2018）：発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の実態の把握と支援内容に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））総括・分担研究報告書
今出大輔（2021）：自治体支援を通じて地域での暮らしを整備する. 発達障害白書 2021:126